

山北にある無人の実家は、住んでいた弟が亡くなった後、墓参りの休み処として、又庭の野菜作りと植木管理を楽しむ場所として時々帰っているのですが、川崎への永住を決めている私としては、そろそろ、次の人に譲ろうと思ったのがきっかけで、この春、町役場に相談したところ、新しい展開をみたので、報告してみたいと思います。

町が「定住対策室」を作って14年になるとのことですが、新しい住人を求めて町の職員が都内で開かれるイベントへ参加することもあるようで、「空き家バンク」制度を作り、そこへの登録を推奨しているが、最近では、登録とその売却などでの消化が安定的に継続して起きていると聞き、家と土地売りの希望登録を申し込んだものです。

すると、買い手希望者があれば町が紹介するが、交渉は、本人直接か不動産業者間接かの選択が必要とのこと、地元の不動産屋媒介を選択したところ、町と不動産屋が日を定めて現場調査を行うというので、設計図や地籍資料などを準備して見てもらい、「空き家バンク登録」が完了したのですが、

6月に、予め予定されていた「空き家見学ツアー」に間に合ったらしく、当日は、早朝に川崎から山北へ行って、家を開け放って待っていたところ、午前中に、東京・横浜・川崎・藤沢などから16名の見学者があり、令和5年第一回「空き家見学ツアー」とのこと、今回の見学対象場所は6件だったようで、今後どんな反応があるかは、行ってみなければわかりませんが、

空き家が日本中に増え、土地価格も下げ続けてきている現状は理解していますが、一方で、古民家への移住人気も出て来ていると聞いて、新しい動きを感じた次第です。

因みに、実家は、父親が発足間もない住宅金融公庫からの融資制度を利用して建てた築70年超の家で、中間屋根の葺き替えもしているので住めるのですが、自分には、典型的な昭和の家の一つではないかと思え、南側に庭と縁側廊下があり、奥間には違い棚と床の間がある平屋で、オリンピックの象徴樹である月桂樹の生垣があり、毎年月桂冠が作れる剪定も気に入っており、今春は、小学1年の末孫の、運動会かけっこ1等記念に、山北の月桂樹の枝を利用するということがありました。

以上